

避難時に注意すること

戸締り・ガス・火元・電気のチェック

避難の際は、火の始末と戸締りを行いましょう。
また、通電火災を防止するため、ブレーカーを落としましょう。
避難時の非常時持ち出し品は必要最小限の物をリュックサックなどに入れ避難時には両手が使えるようにしましょう。



速やかに避難を!

動きやすい格好で、2人以上で避難しましょう。
災害に巻き込まれる可能性があるため、忘れ物などを取りに、家に帰らないようにしましょう。

車での避難は控える!

車での避難は渋滞や事故の原因となるほか、緊急車両の通行の妨げとなる可能性がありますので、避難をする際は、原則として徒歩での避難をお願いします。要支援者等の搬送でやむを得ず車を使用する場合は、地域の中でルールなどを定め、安全性を確保した上での使用をお願いします。



洪水・土砂災害での避難の仕方

歩ける深さに気をつける!

歩ける深さは平均約50cm。
水がひざまで来たら助けを呼び、高い所で救助を待ちましょう!



ロープでつながる!

はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しましょう!
また、水面下には危険が潜んでいます。長い棒を杖がわりに安全確認をしてください。

履き物に注意!

裸足、長靴は禁物です。
ひもでしめられる運動靴が良いでしょう。



逃げ方に注意しましょう!

土石流は流れるスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。
土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる等、逃げ方に注意しましょう。



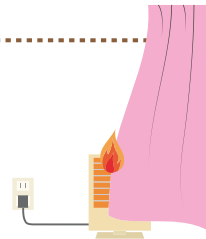
もしも、
土石流に
遭遇したら

地震の際の注意点

屋内にいた場合

【家の中】

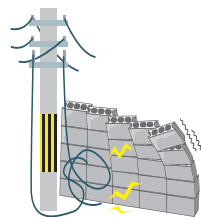
- 揺れを感じたら、身の安全を最優先に行動し、ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。



屋外にいた場合

【路上】

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園など安全性の高い場所へ避難する。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線、ブロック塀などに近づかないように注意する。



【海岸付近】

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。
注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

【車を運転中】

- 徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

避難時の注意点

ブロック塀や瓦の落下等の危険性

老朽化したブロック塀や構造不十分なブロック塀は地震の揺れや台風の強風で倒壊する危険性があります。
また、古い建物の屋根瓦やトタン板なども地震の揺れや台風の強風で剥がれ落ちる場合がありますので、避難の際はヘルメットを着用し、危険箇所を避けた避難ルートを選択してください。

津波の際に橋を渡る危険性

地震の揺れや流木、瓦礫により橋が破損している可能性があります。また、津波が遡上してくる可能性もありますので避難の際はなるべく橋を渡らないよう心がけてください。
やむを得ず橋を渡る場合は、安全性を確認し津波が到達する前に迅速な避難を心がけてください。

直前対策!台風の進路にあったら

屋外では

- 物干し竿や物干し台は寝かせ、自転車なども風で飛ばされないように柱などに結びつけておく。
- 庭木に支柱を立てたり、風で飛ばされそうな植木鉢やゴミ箱などは屋内に入れておく。
- 側溝にたまった落ち葉などを取り除き、排水を良くする。雨どい・雨水ますの掃除もしておく。
- 窓や雨戸をしっかり閉め、外側から板などで補強しておく。
- 瓦やトタンが飛ばされないように補強しておく。
- 浸水の危険がある場合は、日頃から土のうなどを準備しておく。



屋内では

- テレビやラジオなどの気象情報に十分注意する。
- 浸水に備えて、家財道具や食料・衣類・寝具などの生活用品は高い場所へ移動させ、貴重品などの非常時持ち出し品を準備する。
- 懐中電灯や予備の電池を準備する。
- 断水に備えて、飲料水を確保する。浴槽に水をためるなどしてトイレなどの生活用水も確保する。
- 外からの飛来物の飛び込みに備えて、カーテンやブラインドは下ろしておく。

